

タイトル	平成30年度 群馬大学教育学部芸術・表現系 音楽専攻入試 一般入試（前期日程・後期日程）、特別入試（推薦入試）	
評価のポイント	<p>☆系共通問題（小論文）〔前期〕</p> <p>①設問内容を正しく読みとって答えているか、個人的な思いこみや偏りのある内容となっていないか等をチェックします。</p> <p>②文章表現が明確で内容に説得力があり、一貫して論旨が良く整理されてまとまった文章となっているかチェックします。</p> <p>③設問内容に対して解答に欠損部分が生じていたり、一部分だけを強調しすぎたりして、幅広く、且つ奥深く考察されていないなど、構成全体のバランスをチェックします。</p> <p>④客観的に設問の課題や論旨を捉え、感想文のように主観的な表現に偏っていないかをチェックします。</p> <p>⑤誤字や脱字について十分にチェックします。</p> <p>☆実技</p> <p>（声楽）〔前・後期・推薦〕 声楽の基礎的技能（音程・リズム・発声や発音、等）についてみます。 伸び伸びとした声、正しい発音でいかに楽曲の内容を的確、且つ豊かに表現できるかをみます。</p> <p>（器楽）〔前・後期・推薦〕 テンポ設定、ダイナミックス、リズム、それに音質等が適正に表現されているかをみます。</p> <p>（楽典）〔前期〕 解答例を参照してください。</p>	

私は旋律の音の動きに着目して、発声と強弱の2つの観点に着目した指導を行いたいと思います。

この曲は、前半部分では「はるがきた」を2回繰り返す、2回目の「はるがきた」では3度の跳躍後、音が徐々に下降していきます。後半部分では「山にきた 里にきた」とフレーズは盛り上がり「のみも」の部分で二点ホに到着し、次に二点ニで音が留まっています。

1点目の発声の指導の指導では、まず、こういった旋律の動きを、指やペンでなぞらせながら歌うなどして、音が跳躍している部分に気づかせます。次に音が跳躍している部分を抜き出すなどして、弱い音でもよいので、ハミングなどで音をとらせようと思います。そうすることで、普段の話し声や高音域を歌う声の違いを意識し、声の共鳴を体感できるかもしれないからです。すぐには難しいので継続した指導が必要になりますが、声を張り上げずに音の響きを大切にしたい指導をしていきたいと思います。

2点目の強弱の指導では、あちらこちらに春がやってきた喜びや、心が次第に高ぶっていくことを、子どもたちで話し合わせることで、後半の旋律の盛り上がり部分の強弱を、どう表現していくかを考えさせていきたいと思います。

このように、旋律の動きを自分たちでなぞってみる、また、歌詞の内容を話し合ってみる、といった活動を通して、教師のおしつけではなく、生徒自身が主体的に自らの考えを引き出せるような指導を行いたいと思います。